

この取組は「主体的かつ能動的に体験する実社会」の理念を実践する、学生、受入側双方が満足できるインターンシップ制度です。

取組の概要と特徴

本学は、実学主義を教育理念として、実験・実習に力点を置いたカリキュラムを編成しています。

学外体験実習は、短期大学部の4学科すべてで実施されており、その歴史も古く、どの学科においても設立当初からカリキュラムに設け、40～50年に亘って継続して行っています。今盛んに行われている「現場で学ぶ」、いわゆるインターンシップの先駆けとも言える取組です。それぞれの学科の特徴と学ぶべき内容を踏まえ、本学卒業生が実習受入先となって体験実習を実施しており、その内容も時代の変化に合わせて毎年改良が加えられています。

また、近年ではキャリアデザインにも注目が集まっており、「自分の学んでいる学問がどのように社会に役立つのか」、「この学問を学んで自分の理想の仕事に就くことができるか」など学生自らが自分の将来について深く考え、行動することが必要とされています。

このような中で本取組は、大学の講義で学んだことを実際の現場において体験し、講義内容を再確認するとともに、実習を通して実社会に触れ、自らの今後のキャリアデザインの構築に役立てることができるものとなっています。

体験実習は、大きく3つの段階に分かれており

- ①先輩の実習体験報告を聞くことで、自分の実習希望先をイメージ・決定し、受入先とコミュニケーションを図る。
- ②実際に実習を行い、最新の技術や情報、社会を体験する。
- ③実習後、実習先から評価を受けるとともに、自らを評価しその相違を確かめ、さらに実習報告書を作成し実習体験を後輩に伝える。

このように動機づけの段階から実習後の後輩へのフォローまでをトータルに学ぶことで学習内容の理解、学問への興味の深化、キャリアデザインの構築に役立っています。

また、この取組は国にも認められ、平成18年度の文部科学省補助事業「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択されました。

地域に貢献する人材の育成

多様な人との人間関係の構築
 技術を通しての人間関係の構築
 学生主導での人間関係の構築
 社会ニーズに対応する人間関係の構築

キャリアデザインに導く学生主導型体験学習・
 学生主導・校友との連携・双方向型・大学一体

生物生産技術学科

生物生産のエキスパートの育成

環境緑地学科

造園・環境を支える技術者の育成

短期大学部の構成

醸造学科

醸造技術者の育成

栄養学科

栄養士の養成

短期大学部の理念と特徴

- 実践力・即戦力で地域に貢献する人材の育成
- 短期集中での実習・演習を主とする実学教育

東京農業大学短期大学部の教育理念 実学主義